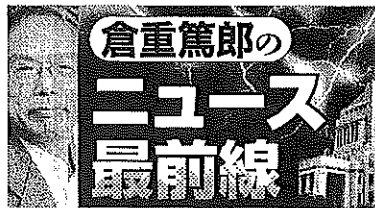


総務省接待スキャンダルは菅政権の致命傷だ!



総務省接待スキャンダルは泥沼のような広がりを見せ、菅政権の官僚支配の実態があまり出されている。この疑惑の核心は何か? これをもっとも自浄作用が働かない政権のありようとは? 霞が関事情に詳しく、問題追及の急先鋒に立つ野党議員のエース4人に訊く。

久々に永田町を歩く。菅義偉首相の長男が関わる総務省接待疑惑の取材だ。驚くべき疑惑である。同省が自己調査しただけでも2016年以降13人に延べ39回接待していたことが明らかになった。放送行政を所管するラインの職員ほぼ総なめだ。1放送事業者が、その死命を制する許認可官庁の担当者も現職課長から事務次官級まで芋づる式に違法接待の闇に取り込んでいた、という霞が関でも前代未聞の不祥事である。

まずは、官僚たちの脇の甘さ、地に落ちた倫理が責められるべきだろう。処分留まらず、人事総入れ替えが求められる。ただ、それだけで終わらせるわけにはいかない。背景には、日本の政治権力と霞が関行政マシンの関係を根っこから腐らせる何ものかが潜んでいる。なぜ官僚たちがリスクを冒してまであえて接待に応じたのか。菅氏長男の同席や菅氏の総務省人事支配の実態とどういう因果関係があるのか。この本質に肉薄する必要がある。そんな思いで国会内を涉猟し、手掛かりを得た。まず目についたのは、政

核心は菅氏の霞が関恐怖支配



立憲 後藤祐一、小西洋之、奥野総一郎、田村智子が断罪

前代未聞のスキャンダルを暴露された菅首相(右)と、首相長男から高額接待を受けた田村智子(左)内閣広報官。政と官をめぐる腐食の関係

よう。ただ気を付ける。会うことを拒否するのは難しいが、割り勘を条件にするとか、お土産など余計なものをもらうのはあらかじめ断る、など自分なりのディフェンスをすると思う」

事件のリアクションは? 「平民宰相的な庶民感覚を売りにしてきた菅氏には、利権まみれというダメージがある。自助を人に勧め、息子には公助かよ、と。コロナ対応では危機管理能力に疑問符が付き、今回も大きく傷ついた。霞が関官僚からすると、冗談じゃない、何でも俺たちがばかばか叩かれるのか、という不満と、こんな

権与党の自浄能力のなさだ。自民、公明両党の議員がこの問題で政権を質す場面をついぞ見ることはなかった。これだけ露骨で大規模な国家公務員倫理規定違反事件である。政権運営に責任を持つ与党が率先して取り上げ改善防止策を提起せずしてどうやって霞が関官僚秩序を統御できるのか。かつての与党はこれほど無責任ではなかった。ロッキード、リクルート、佐川急便など数ある疑獄、疑惑

国民に自助を強い、自らは利権まみれ

後藤祐一(立憲民主党) ここは野党に頼ろう。まずは、後藤祐一衆院議員(立憲民主党・当選4回)に聞く。不祥事追及では必ず質問に立つエースの1人。調査能力が高く経産省出身、霞が関事情にも詳しい。「あまりに無防備、異常な

ことが自らの身に起きたらどうやって防げばいいのか、という不安も出てくるだろう」

事件の全体構図は? 「単なる国家公務員倫理法違反ではない。立派な贈収賄事件だ。職務権限のある役人を利害関係者が濃厚接待した。金品だけでなく接待も賄賂認定されるのは、1998年の銀行による大蔵省接待汚職事件の前例がある。『週刊文春』が最近の接待(昨年12月10日)で音声データをスクープ、本筋の衛星放送事業が話題に上ったことが明らかにされたが、その中で業者側が今後もしょろしよと言った可能性がある。将来についての請託が立証できれば完璧な事件になる」

その中で菅氏の関与は? 「菅氏は接待業者側の東北新社の創業者と息子から2012〜18年に500万円

に対しては、政権中枢の不祥事であっても半ば身を切るような国会質疑を行ってきた。安倍晋三政権の「森友」「加計」「桜を見る会」疑惑の際ですら与党議員からそれなりの質疑があったと記憶する。菅不祥事にはこれがない。1強の抑止力が働いているのか、それとも本音では意外と脆い政権の早すぎる崩落を恐れているのか。後者かもしれない。が身内に甘い与党はいずれ国民から見切られる。

あなたも役人出身だ。「ノー」とは言いにくいでしょう。個人献金を受けたことを明らかにしている。過去、ロッキード事件では首相の、リクルート事件では官房長官の幅広い職務権限が認められている。菅氏から総務省に対してあれやっとならなくて菅氏が思う方向に官僚たちが物事を動かしていく。森友・加計と一緒だ。悪いところを安倍政権から引き継いだ。それが行政を著しく歪めている」

今回どこを歪めた? 「業者として受けた認定や接待会食の時期からして、

核心は菅氏の霞が関恐怖支配 総務省接待スキャンダルは菅政権の致命傷だ!

「自らが絶大な権勢を持つ総務省の許認可下にある企業に長男を就職させるのであれば、今回のようなことが起きることを想定し、長男には、間違っても父のマネ、威光を使つてはならない、総務省に迷惑を掛けてはいけない、ましてや法律を破るようなことは一切するな、ときちんと諭すべきだった。野放図にやらせていたとすれば、親としても政治家としても首相として

も失格だ。別人格と、開き直れる話ではない」
認定実務上の問題は？
「これだけの接待を繰り返したわけだから東北新社側には何らかの目的があったはずだ。衛星放送は許認可によって天と地の差がはつきり出る。認定が審査基準から見て逸脱がなくても最高幹部に接待するとしてもでは変わってくる。最高幹部から課長や課長補佐に対し、東北新社の件はちゃんと丁寧によれよとなるだろう

田村智子(共産党)
田村智子参院議員(共産党・2回)にも聞く。「桜を見る会」疑惑では安倍前首相を追い詰めた。庶民感覚と筋読みの良さが売りの「一事業者の放送担当の役人に対する異常な数の接待だ。放送行政と関わりがな

菅氏の総務省支配、長男は元秘書官

いことはあり得ない。菅氏長男が総務相秘書官だったこと、菅氏が総務省の人事権を握り続けていることも切り離せない。加計学園問題では、許認可申請者に首相秘書官が1回相談に応じただけで問題になったがそのレベルを超えた疑惑だ」
今後どう追及する？

「一事業者とだけどうして接待が続いたのか。業者側の意図、狙いは何だったのか。接待が集中する時期もあり、その間に放送行政でどういうことがあったのか、突き合わせてみたい」
「中でも注目に値するのは山田真貴子内閣広報官への高額接待だ。総務審議官時代の19年11月、東京・虎ノ門で接待された金額は約7万円。1人でこの金額なのだからビックリだ。どこまで追及できるかは別にして放送行政との関係を調べてみたいと思っっている」

それにしても菅氏本人はこの疑惑追及をどう受け止めているのか。広田一氏(立憲民主党)とのやりとり(2月22日衆院予算委集中審議)にその本音が漏れた。「(長男就職の際)総務省とは距離を置いて付き合うように言ったことを覚えてる」と答弁、39回の接待が行われたうち20回に長男が同席したことについては「驚きました」と述べたのだ。
語るに落ちた、と言うべきか。長男を総務省の許認可事業会社に就職させた段階で、今回のような事態招来を予見していた、とも受け取れるし、「驚いた」と言うのも他人事である。
間違つてはいけない。総務省接待疑惑の本丸は、菅氏本人である。菅氏の業者との密な関係、同省に対する節度を超えた隠微な人事支配力こそが問題の核心にある。菅疑惑であるがゆえに政権には致命傷となる。

奥野総一郎(立憲民主党)
放送行政の何が歪められたのか。どこに利益供与があったのか。奥野総一郎衆院議員(同・4回)にも聞く。奥野氏は元郵政官僚。野党内でこの問題には最も通じている。その奥野氏に事件の筋を大胆に見立てて

接待攻勢の核心はBS電波ではないか

もらったのが以下だ。
「本丸は、多分BS電波だと思ふ。17年1月に東北新社はBS4Kの免許認定(左旋帯)を受けた。BSではらせん状に回転する電波を使用、右回りを右旋帯、左回りを左旋帯と呼び、右旋帯は地上波テレビ局に、左旋帯がそれ以外の新規参

入組にあてがわれている」
「問題はこの二つの電波の視聴可能世帯数の差があることで、右旋帯の放送は推計3180万世帯が視聴可能であるのに対し、左旋帯は142万世帯しかないことだ。ということは左旋帯ではいくらコンテンツが良くても営業には限界がある。東北新社側がいずれ右旋帯の認定を受けたいと思つても不思議はない」
「ただ、現実には19年11月、彼らに先駆けて他の新規3者が右旋帯での認定(HD)を受けてしまった。背景には、自民党改革派が18年9月にまとめた『衛星放送の未来像に関するワーキンググループ』報告書が、左旋帯は従来通りで、右旋帯にはHDの新規事業者を入れて競争を活性化させる、とした提言があった」
「ただ、この『ワーキンググループ』は昨年4月に突然再開され、12月15日に新

しい報告書を出した。そこでは、NHK・BSが3波から2波になるなど右旋帯にも空きが出てくることを受けて、左旋帯の認定を受けている業者にも右旋帯での新規参入を認めようというトーンに書き換わった」
「ここからは私の推測だ。東北新社の放送官僚に対する接待攻勢は、右旋帯認定を受けるための巻き返しとのお礼ではなかったのか。いずれにせよ、目を覆わんばかりのズブズブの関係だ。情報流通行政局長、担当審議官、放送政策課長、衛星・地域放送課長という担当ライン4人が会食の対

断れない「長男カード」は罪深い

小西洋之(立憲民主党)
元郵政官僚の中でも小西洋之参院議員(同・2回)は、12年の官僚生活のうち大半は放送畑で、退官時は衛星・

地域放送課課長補佐だ。認定実務にも詳しい。
「接待リストを見ると皆昔の同僚ばかりだ。私の直属の上司も二人いる。人物的にも能力的にもルールを破

象になつて居る。何もなかったと言つても誰が信用してくれるか」
古巣に何を言いたい？
「接待は私が官僚だったバブル期にも確かにあったが、大蔵省接待汚職事件後はすべてなくなった。どうしても会食をする場合には割り勘にしていた。相手が『菅銘柄』だから断れなかったのだろうが、やはりひどすぎる。残念だ。会食したとしても、なぜ金を置いてこられなかったのか。ラインのトップが俺は行かないから皆も行くな、と言えなかったのか。出身母体だけに心を鬼にして追及した」

おくの・そういちろう 1964年生まれ。衆議院議員。立憲民主党所属。元郵政官僚。
ここに・ひろゆき 1972年生まれ。参院議員。立憲民主党所属。元郵政・総務官僚。
たむら・ともこ 1965年生まれ。参院議員。日本共産党所属。元郵政・総務局長。